

6) 血管腫、リンパ管腫

一般的に赤くみえるあざを血管腫と呼んでいますが、血管の内皮細胞が増殖している乳児血管腫（莓状血管腫）と血管が拡張していたり、走行が異常であったりする血管奇形（単純性血管腫、海綿状血管腫など）に分けられます。莓状血管腫は生後1週間から1ヶ月以内に出現し徐々に大きくなってきますが、単純性血管腫、海綿状血管腫は生まれた直後からあって、血流量によって大きさや色は変化します。

莓状血管腫は通常3歳までに小さくなっていくので、急いで治療をする必要はありませんが、ある程度の大きさがあり増大傾向を示していたり、目を塞いでいるなど将来的に機能的な障害を残したり、顔面に醜状変形を残す可能性がある場合には飲み薬での治療を行うことがあります。また、3歳をすぎても目立つ膨らみや赤さが残る場合は、手術による切除やレーザー治療を行うことがあります。

真皮内の毛細血管が拡張した単純性血管腫ではレーザー治療の適応となりますが、皮下の太い静脈などが拡張した海綿状血管腫などではレーザー治療は難しく手術治療が必要となります。

その他には血管以外の脈管奇形にリンパ管腫があります。



上口唇莓状血管腫



膨らみが残るため切除



左中指莓状血管腫



赤さが目立つためレーザー治療



右頬単純性血管腫



色素レーザー2回照射後



前額部単純性血管腫



色素レーザー2回照射後



胸と右上肢の単純性血管腫



レーザー2回照射後

形成外科では倫理委員会の承認を受け、出血を繰り返していたり潰瘍を形成していたりする症例、機能的な障害や醜状変形を残す可能性が高い症例などに限り、血液腫瘍科と協力して乳児血管腫に対するプロプラノロール内服療法を行なっています。



右上眼瞼乳児血管腫(開瞼困難)



生後 8 ヶ月(内服開始 4 ヶ月)



右前腕の乳児血管腫



1 歳時 (内服治療後)



背中の中の乳児血管腫



3 歳時 (内服治療後 2 年)